



料金後納

ゆうメール

音楽と語りによる

宮沢賢治「土神と狐」

11月5日(土) 17:30 ~ 19:00

会場：ギャラリー椿

小林裕児「森の入り口にて」 個展会場内

私の家は小さな谷地の奥の小高い所にあつて、窓から眺めると、左には森の入り口がこんもりとした暗がりのをぞかせ、正面にはその森から流れ出た水を貯めた小さな池があります。右には何枚かの谷津田が続き、すっかり木の葉の落ちた季節だけ木々の間から遠くに一軒の農家を見とめることが出来ます。

「土神と狐」を読むと、あまりに我家と似た風景に驚かされます。一本の美しい樺の木をめぐる土神と狐の葛藤の物語は深い森の中が舞台ではありません。木こりが山へと向かう道筋、騎兵の演習らしいパチパチという鉄砲の音が聞こえてくるような人里の近くなのです。私はよく森の入り口を通過して裏手の小さな山のいただきまで往復します。森に入り森から出てくる時、なぜか不思議な感覚に襲われます。それは異界から人間世界へと入代わる境界を通るといった感覚でしょうか。「森の入り口」で繰り広げられる異界の物語、そのあまりの人間臭さに境界の持つ不思議な力の存在を感じないではられません。

「土神と狐」のパフォーマンスは4回目の再演となります。いつも私の絵とかかわりながら公演していますが、公演の度に深まりを見せ、自身の絵画表現にも少し変化が起こっているようです。今回もあらたな挑戦がありとても楽しみです。

小林裕児

【出演】

小林裕児 (ライブペインティング)

内田 慈 (語り)

齋藤 徹 (コントラバス)

【演出】

 広田淳一

【振付】

 ジャン・サスポータス

入場料 2500円 学生 1500円

要予約・問い合わせ

メール yuji-kobayashi@nifty.com

TEL・FAX 048-582-2484 小林

会場案内

ギャラリー椿

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-3-10 第一下村ビル1F

TEL 03-3281-7808



内田 慈



女優、小劇場から商業演劇まで幅広く活躍する、実力派舞台女優のひとり。

最近の出演作は、舞台NODA・MAP「エッグ」、「ガラスの仮面」、ブス会*「女のみち 2012 再演」、「サイケデリックペイン」、井上ひさし追悼公演「黙阿彌オペラ」、映画「きみはいい子」(呉美保監督)、「恋人たち」(橋口亮輔監督)、他。朝の連続テレビ小説「まれ」移住者の京極ミズハ役。また、幼児向けテレビ番組「みいつけた!」(Eテレ)では人気キャラクター・デテコの声を担当するなど、ナレーションの仕事も数多くおこなっている。

齋藤 徹



コントラバス、作曲 <http://travessiaart.com/> 舞踊・演劇・美術・映像・詩・書・邦楽・雅楽・能楽・西洋クラシック音楽・現代音楽・タンゴ・ジャズ・ヨーロッパ即興・韓国の文化・アジアのシャーマニズムなど様々なジャンルと積極的に交流。ヨーロッパ、アジア、南北アメリカで演奏・CD制作。コントラバスの国際フェスティバルにも数多く参加。コントラバス音楽のための作曲・演奏・ワークショップを行う。自主レーベル Travessia 主宰。



小林裕児



画家、1989年にそれまでの細密な画風を転換し、1996年「夢酔」で第39回安井賞を受賞した。制作は油画、版画、立体、ドローイングと幅広く、国内外で多数の個展、グループ展を行うほか、1999年に齋藤徹とスタートしたライブペインティングでは観客とともにある美術の新しい楽しみ方を国内外の様々なアーティストと模索中。

広田淳一

劇作家・演出家、アマヤドリ主宰。2001年に劇団を旗揚げして以降、全作品で脚本・演出を担当。さりげない日常会話ときらびやかな詩的言語を駆使し、近年は社会問題にも深くコミットした骨太な作品を発表。随所にクラッピングや群舞など音楽・ダンス的な要素も取り入れ、身体と空間、テキストのぶつかり合う舞台を志向している。

ジャン・サスポータス

カサブランカ生まれ。マルセイユにて数学、物理、哲学を修得 1979年ピナ・バウシュ舞踊団のソロダンサーになる。「カフェ・ミュラー」では28年間250回世界中の劇場で踊っている。ペドロ・アルモドバル監督「Talk to Her」(アカデミー脚本賞、ゴールデングローブ外国語映画賞)冒頭のシーンでは「世界で一番哀しい顔の男」と評された。現在公開中のヴィム・ヴェンダース監督の「ピナ」にも出演。

現在は自らのダンスグループ「カフェ・アダダンスシアター」を結成、俳優、オペラ演出、振付家、ワークショップなどで活躍している。合気道から派生した「気の道」をマスター。日本文化全般に造詣が深い。

